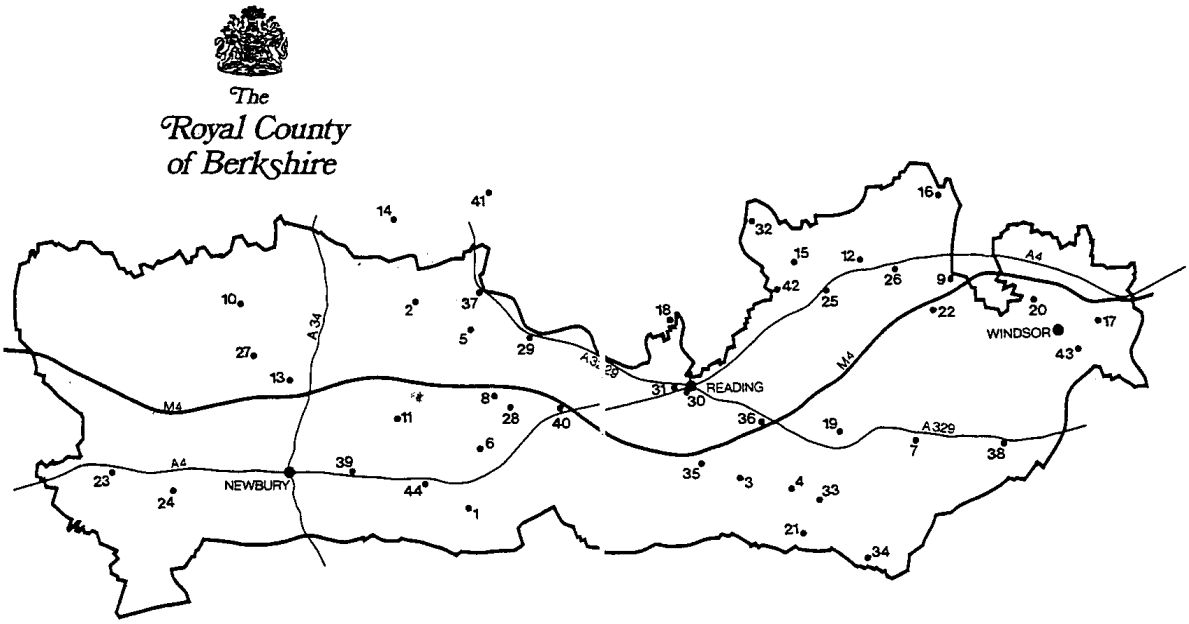
バークシャーのインとその看板のいわれ

バークシャー婦人会連盟編

（8）

岡　本　　誠　訳



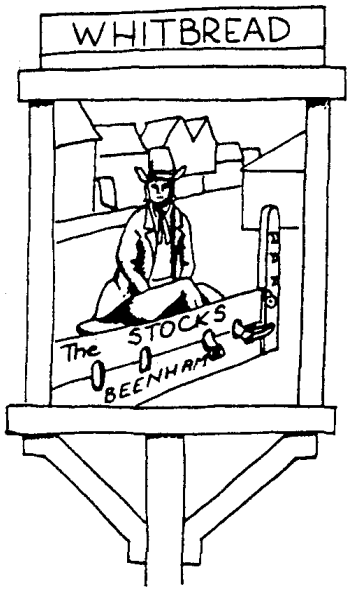
バークシャー州地図

THE STOCKS

Beenham[1)]

場所と由来

Beenham の Stocks は赤みがかった灰色の煉瓦づくりで，屋根は方形の建物である。建てられたのはおそらく 1729 年。小ぶりとはいえ，さる裕福なお方のカントリーハウスであった。この村の似たような様式と年代の四軒のうちの一軒で，他の三軒とは The Vicarage，The Malthouse それに Hillfoot Farm である。Beenham は Reading と Newbury を結ぶ A4 号線[2]の北側にある。



看　板

これがまた珍しいもので，中世の紳士らしい人物がさらし台に両足をはめられている図である。この近くに有名な仕置場でも昔あったのだろうか，と思わせられるが，その事実はない。この建物が村のエールハウスであった頃は別段の名称はなかったのである。“The Stocks Inn” とは最初の主，Donald Stocks からの由来で，彼は Yeoman[3] であった。

歴　史

William Pitt[4]によって課せられることになった 18 世紀の窓税のために，建物の外観に変更が生じている。つまり課税を免れようと三つの窓が煉瓦で塞がれたのだ！　内部はというと，古めかしい荒打ちしっくい[5]もそこかしこに見受けられるが，全体によく手入れがなされている。その手入れはもっぱら現在のマスターである Donald Lamont 氏によるもので，彼は 1967 年にここを引き受けると，それ以前の 10 年間にわたってないがしろにされていたこのインの面目の一新にとりかかったのだった。そして彼は建築学的観点から，建物の当初の特徴をなるべく維持しようとしたのである。

時期は不明だが，当初はパンを焼いて提供していたこともあったらしい。穀物倉庫であったと思われる床下から穀類の皮やさやが見つかっている。ここから外へ出られるドアもあり，さらに，1968 年時点ではまだ使用可能の滑車もあった。離れ家には上部が平ったいオブンが六台も残っている。どうもパン作りをやっていたことは明白である。

Marlow の Wethereds なる人物が Stocks の経営を引き継いだのは 1950 年。その際，さらに周辺の十七軒もの酒類販売免許取得者をも傘下に収めている。

あいにくとこの折にそもそもの造作の類が壊されてしまったらしい。従って，当初の歴史を探ることは，まだ昔のままの姿をとどめていた頃を知っている土地の人々の記憶に拠った次第だ。

さらにさかのぼる1900年には，Stocksの経営者はAldermaston[6]とThatcham[7]のStrange's社であった。1950年にワインやスピリッツの販売免許がおりたわけで，それまではエールハウスであった。村在住の老女が語ってくれた昔話の一つに次のようなものがある。Beenham HouseのMajor Waringに勤務していた者は，日曜の午前中きちんと教会の礼拝に出かけると，バーで1パイント[8]のマイルドかビターかどちらかのビールが飲めたそうだ！この習慣は第2次世界大戦勃発まで続いたとのこと。

Stocksの話はOld Charlieに触れずして終るわけにいかない。頭のいい独学者で，しかも，尊敬の念で見られていた密猟者，バーの中には彼の指定席があったものだ。彼は利口な犬を飼っていた。この犬ときたら自転車の籠に隠れていて，おまわりさんがやって来るときだけ吠えるのだった。

インには17世紀の魅力的な梁のある納屋がある。りんごの古木の下には懲罰のためのさらし台も見受けられる。これは前にも記したように，このインの名称が由来しているというのではなくて，その名称に敬意を表して置いてあるだけだ。

Stocksのパブの方は，バーとラウンジの二つのみである。しかし数ある楽しみの一つが，樽から直接汲み出すという昔のままのやり方で本物のビールを供してくれることだ。圧力ポンプでのマスプロのビールが横行する当節，これは特筆に値する。

所有者

Whitbreads社

以上Beenham婦人会の資料による。

THE SUN

Reading[9)]

場所と由来

Reading のインである Sun に関する古文書によると，その由来は 1739 年にさかのぼる。しかし，それよりさらにずっと昔の 13 世紀には，現在の地にもうインがあったらしい，とする証拠もある。

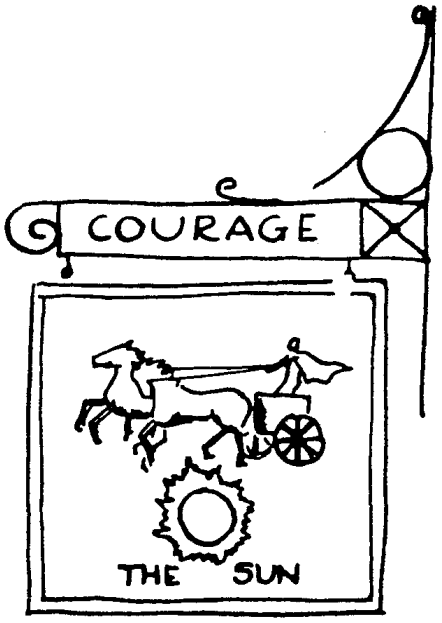
Sun の所在地は St. Mary's Church にほど近い Castle Street に面する角地で，町中でも一番古いところだ。

1922 年に地下の大ホールへと通ずるノルマン人による拱廊[10)]が再発見されたわけだったが，この地下ホールこそ当インの歴史を如実に物語るものである。

Sun の建物に使われている部材には立派なものが多い。昔は Reading の方まで続いてきていた Windsor Forest からの木材と思われる。玄関のドアは重厚なカシでできている。歴史的なことで興味をそそられることの一つが，王室の中のさる狩猟家が置き忘れてそのままになったという狩猟用のサーベルである。それは 1637 年のことで，サーベルには王様の頭部らしい彫り込みがしてある。

看　板

このインのSunという名称と看板は，キリスト教以前の太陽崇拝の時代にまでさかのぼる，一体に非常に古いインとのかかわりが考えられる。看板がまた一通りのものではない。1970年にこれを描いたのはG. E. Mackenny画伯。彼はギリシャ神話のパエトーンをモチーフにしている。日の神ヘリオスの子パエトーンは許しを得て一日父親の日の車を駆って出る。しかしその向こう見ずの故にジュピターによって滅ぼされてしまう[11]。



歴　史

このインはロンドン・バース間の駅馬車華やかなりし頃[12]にはさぞかし賑わったことであろう。乗客が必ず途中下車するところであったのだから。なにしろ現代の地下駐車場よろしく，50頭もの馬を前述の地下大ホールに収容できたのである。そしてこの地下厩舎はさらに地下通路と階段によって，イン横の馬丁詰所に通じていた。

長年にわたりすぐ隣接していたのがReading刑務所[13]であった。地下の独房で処刑前の最後の夜を過した受刑者もいたことであろう。当インが彼らに食事を提供したと察せられるオブンの跡が見つかっている。また，例の地下の大ホールは，Reading大寺院の解体の後は一時刑務所にもなったし，ナポレオン戦時にはフランス兵捕虜も収容された。

インには兵募集を呼びかける19世紀初頭のポスターがある。呼びかけているのはCaptain DukinfieldとSergeant Houghで「Sunの看板のもとに集れ」としてある。Lord Pagetの軽騎兵として楽しい生活をポスターは約束している。「愉快な連中とともに恰好いい制服に身を包み，イングランド最高のサラブレッドに乗ることができるのだ！」と。

1939-1945の戦時下，Sunにはおなじみの眺めや物音が再び出現した。地下大ホールがまたもや動物預り所となったのである。今度はBertram Mills Circusの動物達であった。そしてこの大ホールがその後結局崩壊してしまうに至ったのは，まさしくこのサーカス一行が所有していた象達が遠因となったのだ。象はこのとき巨大な柱に鎖でつながれていたのであるが，とあるとき強力に鎖を引っ張ったがため，さしもの太い梁にもひどい亀裂が入ったのだった。

1947年，ついにこの地下大ホールは（上部のロフトもろとも）一夜にして崩れ去った。幸いにも，前日の午後Readingの市長夫妻が多勢の随員を伴って視察に訪れた際はまだ持ちこたえていたのだった！　現在ここはわずかにノルマン風の拱廊を残して完全に煉瓦で塞がれてしまっている。

Sunが建っている辺りは随分と街並も変ってしまったところだが，Sunは保存建造物の対象となっている。相変らずの魅力を備えていて常連の客に応えている。そして興味深い過去とのつながりを隣接の下級裁判所[14]の建物とともに物語っている。

詩人William ShenstoneはSunを訪れてみて一編の詩を物しているが，その詩は本書の扉に掲げてある。[15]

所有者

Courage社

以上Tilehurst婦人会の資料による。

THE SWAN

Pangbourne[16]

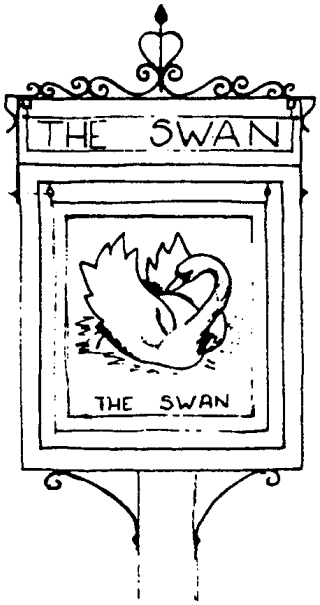
場所と由来

Pangbourne の Swan は，テムズ川はバークシャー側にあるものの，教会区のこととなるとオックスフォードシャーの Whitchurch の下に入る。この教会がバークシャーの方にもかなりの地所を所有していた名残りである。

このインはやって来る人々にくつろぎと喜びを与えてくれているわけだが，当初は河川関係の労働者がもっぱら出入りするエールハウスであった。Pangbourne と Whitchurch の間に橋ができたのは 1793 年のこと。それ以前は，川を渡るとなるとそれこそ渡し船に頼っていたわけで，Whitchurch Mill の営業するところであった。はしけの人夫や運送業の連中が（喧嘩野郎と言われていたが）Flash Lock[17]のウィンチで引き上げられるのを今や遅しと待っていたものである。現在ではおなじみの，閘門が前後に二つある Pound Lock が登場するまではこういうふうであった。Pound Lock が，Pangbourne-Whitchurch 間に計画されたのは 1786 年のことであった。

看　板

Swan のそれはこういう川辺のインにはもってこいである。1875 年当時は二羽の白鳥をあしらったものだったらしいが，現在のものは一羽の白鳥がちょっと羽をあげてゆうゆうと水面を滑る様子である。こういった看板を見れば，誰だってちょいと中に入って一パイ飲（や）ってくつろいでみようか，という気分になるだろう。



こういった看板のことにとどまらず，なんてったってここは場所がいいのである。テムズ川流域の中でも最も美しいスポットの一つにあるのだ。そこには堰が造ってあり，川は見飽きることのない小さな滝のつらなりを呈しているのである。

歴　史

Swan は 400 年の歴史があり，頑丈な太い梁もあいまって 17 世紀の趣を保っている。全体はＬ字形をしていて，外壁には水しっくいを施しており，見ていて心が浮き立つようである。小ぶりの絵のような窓辺は色とりどりの花で飾られ，壁には蔦が這っている。その壁は，この辺りのチョーク質の丘陵地帯から

産出される燧石と煉瓦でできている。屋根は手作りの粘土瓦で葺いてあり，これが古色ものふりついて，古風な別世界にまとめあげているのだ。古い写真によると別棟があったらしいのだが，そこは現在駐車場となっている。

中に入ると，昔の厩舎を改造したものだという川面を見下ろす大きなバーがある。板張りになっており，天井が高い。壁には地元で獲れる種々の魚が剝製となって飾られている。驚く程多くの古い酒びんのコレクションもある。80年前の当インだという写真も興味深い。川に面したテラスに出ると，夏の季節ともなれば花桶が飾られ，川面にはさまざまな船が往き交っている。遠来の人も土地の人も一パイを楽しみにここにやって来るのだ。

1840年には当地で鉄道敷設が始まり，新しい客も来ることになった。ほんの石を投げれば届くようなところに新線ができ，工夫達はSwanでくつろぎ，1パイントのエールを楽しんだ。

川遊びに関しては今世紀初頭がその最盛期で，Swanには社交の花が開いた。そういったことがJerome K. Jerome[18]の *Three Men in a Boat* には描かれているし，子供達の愛読する *The Wind in the Willows*[19]も生まれるに至ったのである。その作者Kenneth Grahame[20]はPangbourneに住みつき，ほとんどの作品を当インのバーでものしたということである。

これまでの酒類販売免許の所有者の中にAshley家がいる。この一家は100年以上にわたりSwanにいたのであるが，その中の一人Georgeは，インそのものばかりか当時活況を呈していた石炭の事業もやっていた。Midlandから下って来た彼の石炭満載の荷船が今のテラスのところに舫（もや）われていたとのことである。

ここのところの17年間も現在のマスターであるCharles Ivan Spackmanの下でなかなかの繁盛ぶりである。土地の人にとっては文字どうり“the local”[21]であるし，遠来の客にとっても，古風な雰囲気の中で心のこもったサービスが受けられる居心地のいい小ホテルである。

所有者

Courage社

以上Purley婦人会の資料による。

THE SWAN

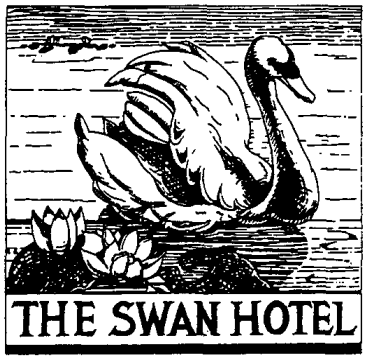
Streatley[22)]

場所と由来

17世紀に建てられた当初のインは艀（はしけ）の所有者の下にあった。あちこちの増築を経て今日に至っている。このSwanのある場所は，テムズ川を間に相対したバークシャーのStreatleyとオックスフォードシャーのGoringが橋によって結ばれているところである。なだらかな丘陵地に囲まれ，川沿いの最も美しい眺望を楽しめる一角である。

看　板

白鳥は気品のある鳥である。1473年にDyersとVintnersという有力なロンドンの商業組合に白鳥の所有とその印をつける特権が認められている。所有者の印をつけるために白鳥を捕らえる一種の行事[23)]は年1回開かれる。ずばり白鳥を描いている看板は，駐車場入口のポールに掲げてある。



歴　史

このインは一部が艇庫にもなっている。そしてこの艇庫には二世紀をさかのぼる興味深い海とのつながりがあるのだ。船舶関係から航空機関係へと転じた技術系企業 Saunders Roe の設立に参画した Saunders 氏自身が一時期には酒類販売免許取得者であり，また造船業もやっていたのである。1880 年代に初めて 17.5 ノットのスピードを達成した蒸気船はここで誕生したのだった。

建物の改築や変更はいろいろとなされているが，以前古い艇庫の跡地を堀りかえしていた作業員が青年らしい人骨を発見したこともあった。その際その人骨は 13 世紀当時にすぐ近くにあった聖ドミニコ修道院の墓のものであるということになったのである。

宿帖を見てみると，芸能界の有名人が来ていることがわかる。例えば Liberace,[24] Shirley Bassy[25]，Dick Emery[26] そして Lionel Bart[27] 等。そしてこのイン自体がテレビドラマのロケーションにもなっているし，やはりテレビで放映されるイングランドの小運河や水路といった風景にはよく出てくるのである。

Franz Lehar[28] は当インに妻と 14 人の子供達ともども 6 週間にもわたり宿泊。従業員や常連客に殊のほか慕われ，いよいよご帰還というときは全員泣きの涙，という一幕もあった。

オックスフォード大学のボートのクルーの学生達もやって来る。この近辺が練習水域なのだ。

ここ半世紀で Swan の建物は大きくなった。1929 年には寝室は 10 しか数えなかったが，現在は 28 室もある。

テムズ川周辺のインは，イングランドの誇る財産の中でも特別なものである。地元の人も遠方からの客も歓迎されること請け合いの Swan もその例外ではない。

所有者

Swan は “Free House”[29] で，女装の男として有名な Danny La Rue[30] の所有。

以上 Streatley 婦人会の資料による。

THE THATCHER'S ARMS

North Street[31)]

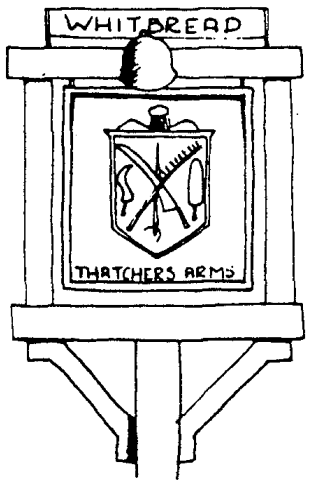
場所と由来

Thatcher's Arms のあるところは North Street。つまり Engle field からはおよそ 2 マイルで，Theale の教区内北よりの小さな村の中である。

今日ではこの辺でも茅葺のコテジなどなかなか残っていないが，ここのパブのすぐ後に一軒，村内にはさらに二軒がある。当パブ自身は知られているとおり，茅葺きであったことはない。名称の由来は，その所在するところが広大な耕作地に隣接しており，その昔，そこには冬に備えてわら屋根に覆われた干し草の山があちこちにあったであろうことからと思われる。

Thatcher's が営業し始めたのはいつのことであったのか，この点については詳らかにされていない。しかし，すぐ隣りに建築家が住んでおり，その人によると最初の建物は 1830 年頃で，裏側の二つの紋章はその 60 年後あたりにとりつけられた由。典型的なそして品のいいバークシャー風の煉瓦造りで，創業以来模様替えは成されていなかったが，つい最近玄関口のところが白いセメント塗りとなった。

看　板



1957年まではただの名称だけの看板で，絵入りではなかった。Whitbreads社がこの年Wethereds社から所有権を受け，新しいものを依頼したのである。描いたのはHenley[31]在住で看板をもこなす有名画家Christopher Holmes。彼はWaltham St. Lawrenceに住む茅葺き職人から看板のテーマとして道具を借り受け，描いたのが針，櫛，へら，ナイフそして鉈の各一本。へら以外はいずれも説明を要するものではない。へらはワラをさらに足して押し込もうという際に使われた。

歴　史

1939年版のKellyの人名録に最初はパブとして登録してある。しかし古い住人に言わせるとThatcher's Armsはとっくの昔からあった，とのことで，ある時期にはこの辺一帯の50ばかりのパブを傘下にしていたAldermastonのStrange's社の所有するところであった。ビールはAldermastonで醸造され，全ての機械は年間5ポンドのコストで水車場の水カタービンを動力としていたのである。

今世紀の当インのマスターの中で最もよく知られていた人物はSamuel Fisherという。彼は42年間も勤めあげた。先程のKellyの人名録の1907年版には彼はThealeの“名士”の項にあげられており，さらに「灌木商，編み垣と箒の職人，ビール小売業，商店主」といった説明が続く。スピリッツの販売免許がおりたのは第二次大戦後のことで，丁度Goody氏が海軍から復員してきてマスターとなったときであった。Goodyの一家はEngle field婦人会会長のBaker夫人と姻戚関係にあるが，彼女の亡き御主人が1930年代に製作したいくつかのテーブルがパブリックバーの方でまだ使用に供されている。現在のマスター“Les” Woodward氏は1950年代からその任にある。

従来の客筋はもっぱら農家の人々であった。夫婦つれだってNorth Streetまでやって来ると，奥さんはお店で買物，その間旦那さんはThatcher'sで一パイ，というような寸法であったとGoodyの奥さんのCyrilは聞かされていたという。現在でも農家の人は多いことは多いが，農民以外の人も勿論やって来る。週末ともなると自転車レース愛好家のグループも現れる。彼らはHogmore

Bridge で勢揃いすると Pangbourne Road の一直線を利用して走るのだ。その日のレースが終わらぬうちは絶対一滴も飲まない，ということも記しておこう。

今後の客種というとどういうことになるのであろうか？　大方は変ることなく夕方になるとわざわざ歩いてやって来る農民達 Theale の村人ということだろう。Theale の村近くに住宅団地ができるという計画もあるらしい。

バークシャーの中の小さな村の小さなパブということには違いないが，非常にイングランドらしい雰囲気を有する 21 世紀まで続いてほしい店である。

所有者

Whitbreads 社。

以上 Englefield 婦人会の資料による。

〔付　記〕

本文中の地名・人名は親しまれているもの以外，原語を用いるようにした。

[注]

1) 地図上の 6。
2) ロンドンからバークシャーの州都レディングを経て真西に Bath の町へ向かう A 級幹線道路。
3) 郷士。Gentleman より下位。昔，国会議員選出権を有した年 40 シリングの収入のある土地を所有した自由所有権保有農（freeholder）。
4) 1708-78。政治家。インド北米植民地をめぐる戦いを勝利に導くなどイギリスの海外発展に功績があった。窓税は彼の時代以前にもあったという説もある。
5) 編み垣に粘土を塗って作って粗末な壁。
6) 地図上の 1。
7) 地図上の 39。
8) 0.57 リットル。
9) 地図上の 30。バークシャー州の州都。発音は〔rédiŋ〕。
10) 11 世紀にやって来たノルマン人はアーチ型の建造物を好んだ。
11) パエトーンは父の馬車を御しそこなって軌道をはずれ，地球に接近しすぎ大火事になるところをゼウスの雷電によって殺された。二頭立て馬車に Phaeton 型があるのはこれに由来する。原文は Zeus とすべきところをローマ神話の Jupiter にしている。
12) Bath は Avon 州の温泉都市。ローマ時代の浴場の遺跡があり，18 世紀にはロンドンの奥座敷といった社交場として賑わった。
13) Oscar Wilde (1854-1900) も男色の罪でここに入っていた。
14) 民事及び刑事の軽犯罪裁判所。
15) *'Tis here with boundless power I reign;*
And every health which I begin,
Converts dull port to bright champagne;
Such freedom crowns it, at an Inn.

I fly from pomp, I fly from plate,
I fly from falsehood's specious grin!
Freedom I love, and form I hate,
And choose my lodgings at an inn.

Here, waiter! take my sordid ore,
Which lackeys else might hope to win,
It buys, what courts have not in store;
It buys me freedom, at an Inn.

Whoe'er has travelled life's dull round,
Where'er his stages may have been,
May sigh to think he still has found
The warmest welcome at an inn.

16) 地図上の 29。
17) 仕切板で水位を上下させる閘門。
18) 1859-1927。ユーモア作家。*Three Men in a Boat* は 1889 年の作品。
19) もぐらとねずみを中心とした動物達の繰り広げる Sunday's afternoon の世界を描いている。子供達が寝る前に親に読んでもらう定番の童話。Ernest Shepard の挿絵が可愛らしくて秀逸。
20) 1859-1932。スコットランド生まれの児童文学作家。結婚に失敗したせいか，*The Wind in the Willows* (1908) に登場する動物達には“女性”がいない。
21) 自分の行きつけのパブを “my local” と言ったりする。
22) 地図上の 37。
23) swan upping という。印はくちばしにつける。
24) アメリカのピアニスト。
25) 映画女優。
26) 27) ともにコメディアン。
28) 1870-1948。ウイーン風の円舞曲を中心としたハンガリー出身のオペレッタ作曲家。代表作 *The Merry Widow* (1905)。
29) ふつうパブやインは醸造業の会社の傘下にあるのだが，この場合は個人の所有ということになる。
30) いわゆる drag queen。Danny は男性名でもあり，女性名でもある。また La Rue のフランス語の意味するところが意味深長である。
31) レガッタで有名。

[参考文献]

Anchor 英語大事典（学研）
リーダーズ・プラス（研究社）
大英和事典（研究社）
世界大百科事典（平凡社）
The Oxford Illustrated Dictionary
The Oxford Dictionary of Arts
The Penguine Dictionary of Decorative Arts
An A to Z of British Life (OUP)